

2021年10月発行



# CWS JAPAN NEWSLETTER NO. 61

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、  
ご理解をいただき、ありがとうございます

## 【事前告知】 アフガニスタン緊急 支援のためのクラウド ファンディングが 始まります

これまでもお伝えしておりますように、アフガニスタンでは、2021年8月15日に首都カブールがタリバンに包囲され、ガニ大統領が国外退避しました。

それ以降、同国内では国内避難民の生活困窮、テロ事件発生等にみられる治安の悪化、社会経済活動の著しい制限、銀行の機能停止、食糧価格の暴騰等の混乱が発生しています。特に、食糧不足が日々深刻化しており、餓死する人々や現金を得るために人身売買が行われる等のケースが報告され始めています。

これらの人道危機に加えて、アフガニスタンはまもなく冬を迎えようとしています。従来であれば、この時期に越冬に向けて備えを行いますが、それができない状況です。このまま冬を迎えるとたくさんの餓死者や凍死に繋がってしまいます。このような喫緊のニーズに対応し、アフガニスタンの人々の命をつなぎとめる支援に活かすべく、CWS Japanは11月以降、クラウドファンディングを開始予定です。詳細は後日、お知らせいたします。

OUR SNS IS ACTIVE!

FACEBOOK

TWITTER

INSTAGRAMでも

情報発信しています!

最後のページを  
ご覧ください



写真

アフガニスタン中央山岳地帯の冬季の写真。雪は大人の身長以上に積もることがある。(CWS)

# アフガニスタン防災 力向上に向けた人材 育成及び政策環境整 備事業：オンライン 本邦研修報告

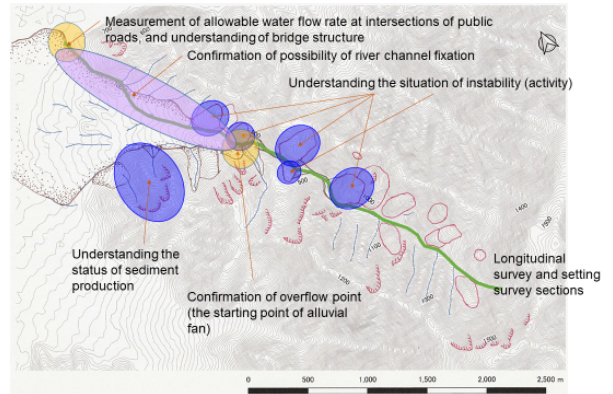
本ニュースレター51号でお知らせしていたとおり、今年1月からフェーズ2として再スタートしたアフガニスタン防災事業第1年次も残すところ、あと2ヶ月となりました。

この間、アフガニスタンでは、新型コロナウイルス感染症拡大に加えて、8月に起こった想定外の政権交代という歴史的な事件が重なり、多難な1年を送りました。そのような不安な社会状況下でありながらも、活動の遅れは見られるものの、現地のスタッフ・関係者は皆無事で、その後も何とか事業を遂行していることには頭が下がる思いでいっぱいです。

本来、この事業では、政府関係者やコミュニティ住民を招聘して本邦研修が計画されていましたが、コロナ禍でオンライン開催に切り替えて実施していました。実は政変が起きた8月はその第2回の研修が予定されていました。その開催直前、政権交代によってアフガニスタン国内が大混乱に陥り、参加者を会場に集めることができず、現地スタッフも在宅勤務を強いられ中止となりました。それから2カ月を経て、やっと今月第4週の2日間、参加者を集め、日本とカブールの会場を繋いでオンライン開催することができました。

今回の研修では、現地スタッフが行ったフィールド調査結果の共有から始まり、今後、防災インフラ施設を建設するパイロット事業予定地における調査内容を検討し、施設の維持管理方法についても意見を交わすことができました。インフラ施設を建設する場所は扇状地で、いくつもの地滑りブロックや崩壊箇所が存在し、多くの土砂流出を生み出している場所です。

研修では、対象地域の特徴を確認し、災害リスクを精査する為の調査項目等も確認しました。



## 事業対象地域図面

アフガニスタンの防災インフラの課題は、災害リスク調査と設計・施工が結びついていない事が大きな要因です。それによって、結局は早く壊れてしまい、頻繁に修復しなくてはならなくなり、仮に放置された場合は逆に危険なインフラにもなってしまいます。災害リスク調査から防災インフラの設計をどう繋げるか、また、コミュニティが主体的に保守・メンテナンス出来るか、本事業で引き続き取り組んでいきます。



## 写真 既存の防災インフラ施設

(文：牧由希子／小美野剛)

# 実習生の紹介

初めまして。二村紗未（にむらさみ）と申します。現在、東京都三鷹市にあります国際基督教大学の教養学部1年生として、大学の一般教育科目「サービス・ラーニング」を通じて、CWS Japanでサービス活動を行う機会をいただいております。

私は、アメリカ自治領であるサイパン島で生まれ育ちました。サイパンで暮らしてきた18年の間、度々台風を経験し、2018年に島を襲った台風では自宅も全壊し、停電と断水の生活を経験しました。そこから環境問題や人権問題に興味を持つようになりました。そして、その際に様々な人から支援を受け、今度は自分が困っている人を支援する側に立ちたいと感じるようになりました。

サービス・ラーニングの授業で初めてCWS Japanのことを知り、災害時に支援の手が届かず取り残される人々のいない社会への実現という目標に共感し、ここで学びたいと強く思いました。

CWS Japanは、宗教、人種、国籍などにかかわらず、全ての人の人権が尊重される社会を目指しており、それは本当に意味のある活動です。気候温暖化とともに異常気象が増え、災害リスクと共に生きるのがあたり前になってきている世界で、このような活動の重要性は高まっていると感じています。現在は、CWS Japanの稼働中のプロジェクトに関するブリーフィング、在京外国人のための防災啓発教材の研究、スフィア・スタンダードトレーニングなどに関わりながら学んでいます。

既にたくさんの経験豊富なCWS Japanのチームメンバーから刺激を受け、様々な知識を共有していただき、新しい視点に触れながら実りの多いサービス・ラーニングを送っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

（文：実習生 二村紗未）



写真  
実習生の二村紗未さん

## STORY WITH OUR PARTNERS -パートナーの声

2011年3月11日に発生した東日本大震災から10年が経ちました。

CWS Japanはそこから10年間、ともに活動する仲間を増やし、多くの方々のご支援とご協力、温かいお言葉に支えられながら、国内外の災害・防災支援に携わることができました。その活動の多くは、わたしたち単独でできるものではありませんでした。

当時から現在に至るまで、わたしたちがこだわっているのは「パートナーシップ」です。

今後も、同じもしくは他のセクターで活躍されているパートナーとの連携やネットワーク構築を通して、災害時に支援の手が届かず取り残される人々のいない社会の実現を目指していきます。

そのために、この10年という節目を迎え、これまでのわたしたちの活動によるインパクトを客観的に振り返るとともに、今後の活動に向けて、改善課題を抽出すべく、何名かのパートナーの皆様へインタビューをさせて頂きました。

# パートナー団体 から聞くCWS JAPANとの歩み VOL.6

寄稿：  
峯田敏幸 様  
(日本キリスト教協議会  
事務局職員)



写真：2011年4月19日、  
契約書に署名する興石NCC前議長（左）と小美野CWS Head of Emergency（当時）

10年間にわたるCWSとの提携による発展は「東日本大震災被災地支援」「JETS活動」「ACT ジャパン・フォーラム」の3つの段階に分けられます。

## 東日本大震災

日本キリスト教協議会（NCC）とCWSのパートナーシップ締結は2011年の東日本大震災がきっかけでした。

東日本大震災が発生したのは、神楽坂にある聖公会のバルナバ教会でNCCの常議員会が行われていたときでした。休憩に入った直後にあの想像を絶する揺れを体験したのですが、多くのNCC関係者があの体験を共有したことは、その後のNCCの活動にとっても大きな意味があったと思います。

会議の中で行われていた協議は吹き飛んでしまい、直後から対大震災の行動が始まりました。他のあらゆる団体と同様、NCCにも発生直後から数多くの問い合わせや励ましのメールや電話や献金申し出などが殺到し、対応しきれない日々が続きました。

NCCはそれまでも海外で自然災害があるたびにACT Allianceの依頼を受けて、被災地支援の献金呼びかけを行ってきました。しかし、東日本大震災は国内で発生した災害であるため、この方法での献金呼びかけができませんでした。いや、それ以前の問題が立ちのぼったのです。震災が海外か国内かということよりも、災害の規模の大きさに対応できる体制をNCCがまったく持っていなかったことです。

未曾有の災害に対応するために、役員会は加盟団体とも協議しながら支援の体制を作る準備を進めていきました。日を置かずWCCをはじめ、海外のキリスト教団体からも人が派遣され、支援体制の話し合いが頻繁に行われました。

しかし事務局が効果的に運営されるためには、被災地支援のノウハウを持っており、さらに海外との連絡や交渉ができる団体の協力を必要としました。さまざまな方策を模索していた頃、CWSの事務局長 小美野剛さんがNCCを訪れ、パートナーシップの提案をしてくださりました。4月に契約が交わされ、こうしてCWSの協力を得て私たちの支援活動が始まりました。

5月に韓国ソウルで東アジア各国のNCC団体によるJapan Earthquake/Tsunami Relief Ecumenical Solidarity Meetingが開催されました。この会議の要請を受けてNCCは被災地支援を担当する日本キリスト協議会エキュメニカル震災対策室（Japan Ecumenical Disaster Relief Office、JEDRO）を立ち上げました。このJEDROを窓口とすることでNCCは国内向けに献金を呼びかけることが可能になったのです。

## JETS

JEDROはその後4年間にわたり支援献金を集め、それをさまざまな支援活動に割り当てて被災地の復興に努めてきました。海外や国内からの献金額がある程度落ち着いてきたNCCの第38回総会期の終了と共に、2015年3月、JEDROはその役割を終えて、解散しました。

しかし、東日本大震災被災地の完全復興がほど遠い中、日本は地震だけではなく、台風、豪雨といった、それまでに誰も予想していなかった規模の自然災害に毎年襲われるようになりました。もちろんそれは世界的な傾向です。世界の多くの地域で大地震や火災や洪水が発生しており、そのことにも十分に目を配らなくてはなりません。同時に、東日本大震災とそれに続く自然災害は私たち日本人に、いつも私たち自身がそういう危険と隣り合わせで暮らしていることを気づかせてくれたのです。

"私たちは単に被災地の復興だけでなく、防災を真剣に考える必要が出てきました。"

海外への資金援助をすれば足りていた時代は終わりました。以前から耳にしていた首都圏直下型地震、南海トラフ地震などもにわかに現実味を帯びてきて、私たちは単に被災地の復興だけでなく、防災を真剣に考える必要が出てきました。

JEDROに残された資金を元に、新たにJapan Ecumenical Task Force for Saigai (JETS) というプラットフォームができました。これはNCC、CWSを中心にYMCAやワールドビジョンといった支援活動を行っている団体と協力して、防災に関して学びや討議を行うものです。不定期に会合を開き、専門家の話を聞きながら、自然災害にどう備えていくか、またキリスト教界がそのことでどのように貢献できるかを話し合い、毎回貴重な情報や知恵の共有ができました。

## ACTジャパン・フォーラム

NCCはACTからの要請を受けて海外の支援活動に協力してきましたが、ACTのメンバーではありませんでした。2011年、ACTの機構改編があり、NCCは2012年、正式にACT Allianceのメンバーとなりました。CWSもすでにACTのメンバーとなっており、2018年、CWSがNCCの加盟団体になることによって3団体の協力体制を強めることができるようになりました。ACTは機構改編に伴い世界各地のメンバー団体に対し、地域ごとの自主的活動を進めるフォーラムを作ることを提唱していましたが、CWSとNCCはこれを受けて2019年ACT ジャパン・フォーラムを発しました。気候変動が世界のトップレベルの課題の1つとなっている今、ACTジャパン・フォーラムが果たすべき役割は大きいと言えます。

この10年間に世界の諸問題は増えこそすれ、解決したものは多くはありません。自然災害の発生件数増加は多くの人たちがニュースで見聞きしているとおりですが、私たちの意識も体制も必ずしも現状に追いついてはいません。確かな知識やネットワークを持っているCWSはNCCにとって心強い存在です。自然災害の予防や支援においてもこの先まだまだ時間がかかりそうですが、良い協力関係を維持してこの重要な問題に取り組んでいきたいと思えます。

**インタビュー相手：  
金子信義 様**  
((株)カネコ・アンド・アソシエイツ・ジャパン  
代表取締役)



**—How did you first get in contact with CWS Japan?**

I have known CWS for the last 20 years. As for CWS Japan, I came to know the establishment of CWS Japan via my friend, Rev. Doug Smith, who previously worked at the CWS US.

"Not "We vs They." But "We as a collective community.""

**—What was the good thing about working with CWS Japan?**

I came to learn of the dedication of CWS Japan. Komino San (CWS Japan Secretary General) and his team are passionate about the work of CWS Japan. They are dedicated and driven to bring a much needed message in Japan.

**—What advice do you have for CWS Japan and what do you expect from CWS Japan in the future?**

My advice to CWS Japan is to be an ongoing witness for social justice and humanitarian efforts. Japan, in my opinion, can become a leading nation in assisting the global community with dire needs. CWS Japan can play a great role in this regard.

**—What are approaches and/or perspectives that you uphold as utmost importance in humanitarian and disaster risk reduction work?**

Egalitarian and open-minded. Not be afraid to speak out and witness when needed. Globally connected and locally driven. Immediate response to disasters and other humanitarian challenges.

**—What are some of the key issues with regards to the humanitarian and disaster risk reduction fields, which need to be addressed?**

Sustainability and economic justice. Not "We vs They." But "We as a collective community."

**Interviewee:  
Marvin Parvez  
(Regional Director,  
Community World Service Asia)**



**—How did you first get in contact with CWS Japan?**

Komino san (CWS Japan Secretary General) and I have been working for a very long time in the whole region from the Pacific to Europe, implementing programs, building networks, developing partnerships and relationships. It has been great opportunity to work together, and in fact, when Earthquake and the Tsunami in Tohoku happened, he was actually visiting Pakistan/Afghanistan program areas. And it was on the news, we saw it in the evening and we decided that Komino san will take a trip back to his home country to look at the situation.

I still remember, one of the first videos he sent was total homes destroyed, boats, and livelihoods people in desperate need of food and clean water and shelter. You don't expect something like that from the first world country. We expect something like that from the third world, underdeveloped country, but the destruction was so huge. And it was not just Earthquake and Tsunami, but also a disaster in Fukushima. It was decided in the meeting that he will then stay there, and start a program to assist the communities in distress and in need. As a first step, we worked with communications colleague Matt, back in New York to to produce and to edit the video, and there was tremendous support from North America and Europe, and from other colleagues in our networks and partnerships.

That was the beginning and it was then decided to have CWS Japan because of the strategic location, has the fundraising opportunity, and programming needs to start its own office and organization. The Board was selected in partnership with the local members, whether it was National Council, YMCA, and other friends like Seeds Asia. And new organization was born with its strong governing body and very dedicated team.

**—What was the good thing about working with CWS Japan?**

When I talk about and think about CWS Japan, as a whole, the team, the governance, and its friends in Japan and around the world, the team and the governing body have been strategic, have been able to prioritize and act at the right time, and helped develop strategic relationships and the niche programs that would be helpful not only to them, but also for partners and networks. And that's one of the greatest things about them.

"Continue to be a role model, continue to be strategic, and promote humbleness, empowering approach, and dignity in partnership and programming, and quality programs."

If you go back to the first few years, one of the largest Q&A (Quality and Accountability) conference was organized by CWS Japan in Tokyo. And since then, the Q&A movement has become independent movement in its sole organization, and that's the strategic direction the governing board and the team state that they don't control, but the priority becomes being sustainable. That applies to DRR (Disaster Risk Reduction), work they are doing around Asia. And another very strong thing about CWS Japan is the way how it promotes collaboration in the region, and around the globe. With organization that are like-minded brings organizations together. Bangkok week where CWS Asia, CWS Japan, ICVA, ADRRN, UNOCHA Regional Office come together

it's an amazing way of showing how they promote collaboration and cooperation. In our sector which is dominated by very few, CWS Japan is one Asian organization that is taking a lead of being one of the leaders in the sector.

**—What advice do you have for CWS Japan and what do you expect from CWS Japan in the future?**

My advice to everybody at CWS Japan, whether at the governing level or the team, is just keep doing what you're doing. You're doing it very well. And I think a lot of us are learning from you. Continue to be a role model, continue to be strategic, and promote humbleness, empowering approach, and dignity in partnership and programming, and quality programs.

"That's what we are heading for, and that's what we want. A dignified sector with everybody sits as equal on the table."

**—What are approaches and/or perspectives that you uphold as utmost importance in humanitarian and disaster risk reduction work?**

One of my greatest privilege in life was when I was able to serve on its board as its first chairperson. And that was a privilege and a great learning. The second privilege is that the work we do now as colleague agency as sister organization, as partners. Obviously the credit goes to the culture and the team in CWS Japan, and it is dignified and empowering partnership. That's what we are heading for, and that's what we want. A dignified sector with everybody sits as equal on the table.

Once again, congratulations on your happy birthday.



峯田敏幸 様、金子信義 様インタビューへのご協力ありがとうございました。

Thank you very much Marvin Parvez!

今後、インタビュー記事を定期的に皆様にお届けしたいと思いますので、是非ご高覧ください。



眞弓 孝之 様 | 国土防災技術株式会社事業...  
© 6月 06, 2021 ■ パートナーの声



中村 清美 様 | 国土防災技術株式会社国際...  
© 6月 06, 2021 ■ パートナーの声



上島 安裕 様 | 一般社団法人ピースポート...  
© 7月 07, 2021 ■ パートナーの声



堀内 葵様 | 特定非営利活動法人 国際協力...  
© 7月 07, 2021 ■ パートナーの声

▶ これまでのインタビュー記事は[こちら](#)をクリック



アフガニスタン緊急支援のためのクラウドファンディングの詳細情報に関しては、後日発表いたします。

特定非営利活動法人CWSJapan  
〒169-0051  
東京都新宿区西早稲田2-3-18  
日本キリスト教会館25号室

メールアドレス：  
public@cwsjapan.jp  
電話：  
03-6457-6840



[CWSJapan](#)



[@Japan\\_CWS](#)



[cws\\_japan](#)